

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(藤井康栄『松本清張の残像』 九八～九九頁、文春新書、二〇〇二年)

注 藤井康栄は、株式会社文藝春秋で、松本清張付きの編集者として働いた。

問一 傍線A「若き日の吸収が如何に血となり肉となつてゐるかの証左」とあるが、「羅生門」の末尾と「或る『小倉日記』伝」の末尾とを比べながら、どういつたところに共通性があると考えられるか、思うところを述べよ。

問二 傍線B「アヤフヤ」を言い換えたものとして最も適切なものを、次の中から選び、記号で答えよ。

- ① 圧巻 ② 安直 ③ 曖昧 ④ 悪性

問三 傍線C「芥川龍之介の」初期から中期にかけての諸短編から、知っているものを一編あげて、その面白さを説明せよ。

問四 傍線D「逆説の小建築」とはどういう意味で言っていると思うか、説明せよ。

問五 傍線E「悔恨」について、松本清張は、本心ではどうしたかつたのか、説明せよ。

問六 作家の第一作は、その作家の作風を決定するという考え方について、賛否の立場を明確にして、自由に考えを述べよ(賛否のどちらを選ぶか自体は採点の対象としない)。